

地域通貨 (TR) 運営委員会第7回会議リポート

1. 開催日時：平成24年1月19日(木)午後1時より2時30分まで
2. 場所：富岡市生涯学習センター・第4学習室にて
3. 出席者

宮澤展彦委員長・秋山昌律委員・高間一幸委員・富田顕嗣委員
小川哲郎委員・長典男委員・浅川高広委員・草場史子委員
時田由紀監査・林健太郎事務局長代行・・・以上10名

4. 欠席者

高橋敏男副委員長・・・退任の為
高橋忠宏委員・・・東京出張のため
小山渉一委員・・・店の都合のため
高間弘文事務局長・・・仕事の都合の為

5. 内容

- ① 司会進行・・・林事務局長代行
- ② 開会の挨拶・・・宮澤委員長
- ③ 富田顕嗣委員の紹介
- ④ 会議(議長：宮澤委員長)

【組織変更】

<可決事項>・・・高橋敏男副委員長の退任に伴う高橋忠宏委員の副委員長
就任草場史子さんの委員就任(推進部会)

一部の委員より高橋敏男さんの副委員長の退任を惜しむ発言がでました。
高橋忠宏さんと草場史子さんの就任は満場一致でした。

<先送事項>・・・高間弘文さんの委員(組織部会)の就任と事務局長職の退任
林健太郎さんの事務局長就任

・多数の委員より高間弘文さんの意向(事務局長への執着)を
優先するべきである旨の意見がありました。
・宮澤委員長と高橋副委員長による再調整を図ることが提案され、
その推移は宮澤委員長へ一任することになりました。

<暫定処置>・・・高橋副委員長が組織部会を兼務
事務局は林事務局局長代行が継続

【前回の講演に対する質疑応答】・・・担当：草場委員による質疑応答

草場委員より事前の質問に対する説明を聞きながら、
新たな疑問（ボランティア保険などの取り扱い）について
真剣な協議がされました

【TR 試案に対する質疑応答】・・・担当：小川委員（企画部会）

時間の関係で、次回へ移行となりました。

6. 事務局より連絡事項

- ① 2月17日（金）・午後1時より午後2時30分まで・生涯学習センターにて
- ② 次回の議題（TR 試案に対する質問&疑問の準備）に対する注意
- ③ 草場委員より「菜の花の集い」のご案内

7. 閉会の挨拶
宮澤委員長

8. 所見

・・・地域通貨の先駆者でもある富田顕嗣委員の出席もあり、大いに盛り上がる予定でしたが、活動から一步引き下がる方の出現や組織内のギクシャクしたこと、そして地域通貨の現状があまりよろしくない事態が判って来るに從い、全員のマインドが低下しそうな雰囲気です。誰もが取り組めることができなかつたことに挑戦できることを誇りに思つて、“どうせ失敗してモトモト！”という開き直りでじっくりと進んで行こうと新たに決意しました。

※このリポートは議事録ではありません。あくまでもホームページ用に作成したダイジェスト版であることをご理解下さい。

質問 1

アメリカでもイサカアワー、タイムダラーなど村の中で流通していると聞いている。最初から大掛かりに仕掛けてもなかなか流通がむずかしいのではと思う。しくみをしっかり整えても流通しない通貨もあった。しくみがあっても流通しなければ、衰退していつてしまう。村中で流通とらると税がかからんのでは？

質問 2

寄付行為に税制上のメリットがあるようにするには仮認定でもなんでも認定NPO法人になる必要がある。2005年までは設立後5年以上の団体も仮認定申請が可能。販売促進費、広告宣伝費計上は、企業と同様の扱い。

質問 3

NPO法人会計基準にはボランティアの算入について明記してある。ボランティアを最低賃金以下、時給レベルで計算するとつまらなくなる。

質問 4

近所の人に、散らかった部屋を見られたくないなど、知り合いにたのみにくいこともある。

質問 5

会としてリスクマネジメントをどのようにしていくか決めておく必要がある。ボランティア活動、好意による活動で、損害賠償はできないと入会時了解をとったうえで、ボランティア保険加入した。

ボランティア保険対象外とされたが、趣旨をはなし、加入できた。

※ボランティア安全パトロールなども当初ボランティア派遣対象外だったが、実績が増える中で対象となったようなケースもある。

質問 6

円ではだまされるが、地域通貨ではだまされるようなことがないという安全をPRできるようなくみづくりが期待されているのではないだろうか？
狭い地域で人をだますようなことはすぐ、地域内に広まっていくので、あまりそのようなことはおこなうのではと楽観的に考えている。

質問 7

達成できなかったとおもったら、対価を辞退している。
傾聴などのりよりでは、傾聴したためになつたからということで、対価支払いの立場が逆転した例もあった。

質問 8

流通のみ、交換手段のみに価値が生まれ、貯蓄に意味を持たないという概念の普及はむずかしいが、取り組む価値はあると思う。またゲゼルが提案し、1930年代、ドイツで実践された減額する貨幣の仕組みも面白い。経済成長している時代、インフレで、貨幣価値が減額していた。経済成長が見込めない成熟社会においては、減額する貨幣というしくみは面白いと思う。

質問 9

すべて活発な流通が続いていると思う。

質問 10

失効率という概念はなかった。活用率は関心があった。期間がくれば 100%失効する。

質問 11

貯蓄性があると組織破たんによる失効は問題となる。

質問 12

地域通貨普及啓発には意味があると思うが、商品購入の割引券利用になると本質理解につながりにくいと思う。

質問 13

流通

質問 14

友達の友達作戦

質問 15

地域通貨の良い点は新たな価値の創造。悪い点の代表的なものは胴元だけが儲かるような仕組みで実施されたものの

質問 16 質問 17

金銭的な余裕はないが、時間がたつぷりある未就労で子育てをしているお母さん仲間中心で実施していた。子供が小学校中高学年となり、お母さんたちがパートで働くようになると、助け合わなくても、自己完結型の生活の方が楽になっていった。(図 1 参照)

【補足】

2000 年から始まった介護保険制度が普及してきて、ヘルパー事業と地域通貨による助け合いの内容が重なる部分がでてきた。同じような内容は、金銭的対価がある活動である介護保険制度のほうが社会的に認知された。特に移送は地域通貨メニューの目玉であったが、福祉有償移送に関するガイドラインができたり、介護保険制度の中で位置づけられたりしたなか、地域通貨利用されにくい社会的環境となっていたと思う。

質問 18

円という通貨、為替レートという仕組みへの疑問。

例えば：江戸時代の小判は金の含有量により、物価が変動したが、単なる紙の円ではそういうことがおこらないのが不思議。人が一日に必要なカロリーを賄う食物量は同じでも、その価格は国により大きく異なること。アフエアトレードへの疑問。主婦労働対価への疑問。

質問 19

円本位制をとる。1 枚 1 時間 ¥2000 という価値設定。減額する仕組みの導入。

質問 20

割引券はつまらない。商店街を手伝うような労働との交換など工夫があったほうが良いと思う。

質問 21

数値紙幣は価値がきめにくいと評判が悪かった。感謝紙幣は原則 1 枚交換だったので、比較的使いやすい思ったが、2 枚渡したい、3 枚渡したいという意見もあり、実施された。

質問 22

イベント、キッドを使ったワークショップ

質問 23

提出依頼では回収できなかった。連絡し、家に回収に行くコストをかけることができなかった。

質問 24

一斉にメール送信されると、誰かがやるだろうと傍観者のにみんながなってしまいう傾向があった。コーディネーターがメールを書き、取り持つ必要があった。

質問 25

住民参加型在宅福祉サービスと同じようなしくみの地域通貨であれば、地域の社会福祉協議会がとりくんでいる。地域によっては社会福祉協議会は行政職員が出向しているので、行政を巻き込むこととなる。行政を巻き込む、メリット、デメリットを整理したほうが良いと思う。大和市などは行政管理施設利用を地域通貨でできるようにしていた。

質問 26

現在のどの程度流通しているか確認しないといけないが、

北海道の栗山町

早稲田商店街のアトム、

神奈川県大和市 LOVE S、

<http://www.hitachi.co.jp/Div/jkk/jchitai/interview/staff/staff004/002.html>

愛媛のだんだん など

地域住民分析 (図1)

時間 多

